Kodak Gray Scale
© Kodak, 2007 TM: Kodak
A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

栃木県立図書館

Kodak Color Control Patches
© Kodak, 2007 TM: Kodak
Blue Cyan Green Yellow Red Magenta White 3/Color Black

栃木県立図書館
栃木県立図書館

栃木県立図書館

前田タカ氏寄贈

三段スキ

時蒔時蒔

九ポ

八ポ

終はパラルビ

一借りして（まとは面白いやつ

三段、

八ポ

ここは

こゝに仏語に見えるこの「金」

前の住ふり

まるポ

仏語の9ポ

ゲンジャクは

「金剛」のことで、むろん「無」に対した

仏者に使う「無」の「武」というのが

ある。だれ此者とは言っても、名あるお寺の

仏品と結ん人でものではなく、これは書物無

の向に盛んに行われた

いわゆる黙仏禅（同

栃木県立図書館

好者の手が集って、私に連句を作し、後しかへす言葉に批評をそえ、その作品を競ったあそびをいう。言葉遊なしに各因に事を運ぶところから、こういう作しをよく運座とも稱した。の高点句をあつめたものであるが、それぞれに都って時宜の時節自然に落ち、節調を吐き出したところ、ちょうど俳人の俳諧の時の神氏の嘆きをじかに聞くことが出来るのみならず、また人性を俳諧を比較分窺うに、まことに珍重すべきものがある。

その中

栃木県立図書館

従って、古典的流の俳人は、これを外道俳諧と称しめたが、それにも拘わらず、山崎宗鑑は、利休に「武道いをいくらも出し（中略）今での御宮と申」と言ったように、この書は一種の紀行文であるが、寛正三年の冬から引つづき翌年行われ、その記を見た立圃は一年よりも十五冊を出版している。このあと二巻・紀逸によって二冊編纂され、十八巻本として今日に残る）これらの作品は後の柳人に影響するところ多かったので、この書をも

栃木県立図書館

9.5.0

6

ってそれの源流なものと思る向きもすくないが、にもかかわらずその作品は、今日い抑に較べてあまりにも一般からは到底遠いものになっている。そこで今回はこの「武者小路」の作品に「金」というものがとりあつかわれている風に詩されているかどうかを、当時の思潮の「金銭観」というようなものを振り返ってみたいと思う。

（作品に十四文山よのもの多いのは、この赤は連合から手紙あるものを一句づつ抜

栃木県立図書館

いたので、独立句とこれを相対するものとして、これを特殊なものとして「俳句」という。ゆえに俳句は「詩」である。

人間の本質の動けば金動く。これは人間が文化の手段として個性というものを発明して以来の、いわば常識であるが、そういう理屈をぬきに、「詩天」というものを中に、何となくそのことを思いうかべたとき

006

ろに詩がある。しかれども、生き生きとそれを詞いうげている題材は、まさに江戸ひとの春、其角の「鐘一つ買われぬ日はなし江戸の春」とその新鮮さを詠っているか、この句はそれに輝きをかけていかにも市場の繁盛を見せている。「武蔵野」のくだりは、おおむね果くのはすばらしいもので、言葉に世話を用いて、六歌仙にかちいうち、なおそこに彼らの作るものを残した作風には、私どもが学ぶべき点多くない。この「武蔵野」に於て私の最も好む句を

栃木県立図書館

三年生として、学級に入ることとしよう。

大利は慣れる金でなし

大利は当時の貨幣の最高位にあったが、通貨と呼ばれいささか縁遠いものがある。わずかに慣用として使われているので、何遠ってそれ以外になど入ることになるのである。

一生涯にはあはぬ大利

従って大利などのように生涯に当ててその真偽を試めされるというような、みじめを見ず

栃木県立図書館

に通じるのである。

二朱銀さわれば丸いだけ

大判の表には墨で金拾両と書かれていたが、これは一両小判五枚分に当るというのではなく、古く砂金は代の移時代に成したもので、砂金は四匁五分をもって一両としたが、即ちそれの十倍の量目を持つということ言うのである。

江戸幕府になってから鋳られた慶長大判は、同方はそれに近かったが、金の品位は七分五厘ってソレのので、文政年間で千両で通用しなく

栃木県立図書館

つて。落語のつおせつの「徳三さん」の下に、徳三
郎がおせつの心変りを思つてそれを恨みそうと
持参の刀を買つに行く。そこでの問答に、
刀屋が「金二枚」と言つたのに対してそれで
は十五両でと値を切ると「何ずる」ところがあ
る。この「金一枚」というのは十両を指していら
ので、時の相場とは別に、通用その実価
を西二分と踏んでいる。こういう割出しは
何処からきたかというと、唐代の「金の品
位は古代一(4分位)であつたから、その金

1/2行

四厘は二十九匁四分二厘。これを十利の四分八厘という金額で勝手に紙幣を倍率ということになるからだと言われている。こんな風で十利を二分とか一分とかの四角な金を出すのは、一匁十利と立換し、それからまたという二匁の手数がかかることをこの句は言っているので、つまり一匁ではまだ丸い十利にしかならないというのである。

利を思る

十利をわきい金に出す年、そういう手数

8月分これまで

だけではなく、更らにその都度、西洋紙を通じてその品へ面白味をもたせるようなことは、何かあった。それは大抵を買う場合にも同じであったが、そこに面倒がかゝるため、よほどのことのない限り出掛けるということはなかったようで、それにもう一つ、指の如くで成多に人手を活かす巧く金をなかったから、手摺れの心配もないので、大利のように刻印にする必要もなく、型で書きが綺麗に出て来る訳である。この型が消えると、大利就

へ持参して者す通して世話わたくしならなかった
が、それらを手数料として一分とられた。こ
れはまったくなことなので、太刀を持つく
ひとそれを真綿が撫ぜ金の袋に入れて出せつに
仕舞って帰りたのである。自はさくなった父
の遺物を粗末に扱っているうちに、思いもかけぬ
ところからそういう太刀が出てきたのである
。それを持参して帰りの途中に事つた自分
の者に見せたのである。「見るしたの
はいらないものを見たという感じを、

栃木県立図書館

そんによって書けるやうとしたのである。

太郎の絵かきした場は丸はだか

「絵かき」はつきとして、正面をゆったかたち。ほら太郎が坐ってゐる時は、前に出ってたように、神様がの場合であるから、まさに絵やそれに全くたまでもせず、これを弾にしたといふのである。

太郎へも強の自つのあいしらい

太郎となると一段に見立いものとなる。そんぞれにも汚れ、いつもど

カビカでいるという譜には、時には著しいのかかったのを重ねることもある。そんなのを世ごうと、ついこれを結婚に出ようせたくなるのは人情で、鏡に対するそれのように、ハッと自分を外して拭いてみたというのであって、今ならばさしずめ急の結婚にコテをかけたというところである。「あいしらいしは正しくはあえしらいしいして、あしらい、扱いである。」

七月十二の著述になる所

コクヨ 10×20

真偽は知らず、太閤が始むるの黄昏を幸に乗じて押寄せしたのが十利の形のはじまりだ、と、よく流言蜚語が引きごとにしているが、十利と太利と同じくらいに長い掛引をしている。従ってこれをつづこにすると、人のはを蓋するのに指ねよい形となる。そのせいか人は十利を見せられると大概なことはにげ出せばよいことになる。

なるべく高なしに向かつて十利に向ふ、

真偽にせずとも十利は切つぼんぐすり

栃木県立図書館

どうして説明するまでもなかろう。

かゆいところへ手の届く金

というのも同じ心持を詩っている。

愛られる時は却て悲しき

われを手にして要らぬこの世の人間なる

いや苦であるか、我が身を買った代金として

これを要る時がなければ、それが何か悲しい

のに思われるというのである。「愛られ

ると云うから、いい娘になって年頃十

ましてから」と詩われているのと同様親

のために苦しんで身を決める姫である。勿論そうもあろうという想像の作品であるが、彼にとって「恋ゆえ」という言葉が、聞く人の胸を刺して来る。

母のわずかのわびしい言葉にも

「過ぎずに仕過ふ母上の金」で、俺のようにたまに仕無っておいた金だが、それにも増して同感である。俺の不始末とあって母親はその度ごとに拭いに母親はこれを出さざるを得なくなったのである。

栃木県立図書館

十郎に向かって言う。

視の意味が必らずしも絶対とは絶対とし
て扱っていなかったので、子供達の間に遊
達さんらそそ達が走り、丸いお皆の十郎に力トがも
来たというのである。

十郎をなめるとは戸のみどりで
草深い田舎に居ては、十郎など一生のう
ちに褒めるかどうか知れないのに、さすがは
おじさん、毎人皆が十郎をしやふっている。な
人と高貴なことよと
いうのであるが、私人

所が因らから十利をなめに行くわけはならん。
そんなことをいうと気がかと毒ガスに船を見せ
しという柳と同じように、どうするかという
ふ場合から親が、そこにあった十利をe
ロイと毒ガスに移したのであろう。
そんにしてもやはりこの戸であろう。

4西箱に手ではなし

4西箱とは、十利の運搬または収蔵用に
つくられている容器で、百匹ずつを十個縛め
たところからこのなまえがある。無色なまこと

43.10月

に貴族院の議員なので、こうとうには及ばないが、
やはり高等で、おれは利一枚の用紙を
使うに前記の四角八畳と目されて、こんが十枚
で、四畳半八十円。それに翔が、義理の母の
指図でつくられた、詰めものや何かを合わ
せると一畳半位あるから、七十五円
から五畳五十円ということろ、そのをデンと
指えられて、ケットやソットには押しいら
くれならなかったに違いないので、これは
そのことを苦心をわ
わせていることと思われる。

栃木県立図書館

高さは4寸西箱に劣るし

4西箱の方法は、長さ三寸・二寸センチ（一尺一寸三分）幅一二・六四センチ（四寸四分）高さ一二、三センチ（四寸四分）というのがその標準であるが、それを入れて置くには、手頃なので、それに利用したというのであるが、十数年前から鯉を飼養するのに、求めいやすいと、その利用方法は、ちょうどこの方法であるが、しかし4西箱の空箱を

栃木県立図書館

ええ

ふかふ

むっと気おに4両箱の軍がたつき

というように、男がすたると、えんた竜巻の

中兵衛さんをさめんかい、そんなところか

らその仕儀と相成った次第かとは相成さん

よ。

4両箱と両ねる絵

即ちその4両箱を穴とさせたテオである。

このヒトがねえと、つくづく紙女を打ち作

ぎ、そのに思えたるさまをつい桜ぶか白の中

栃木県立図書館

に見える。

金ばかりせたせ度なるけれども

つかつた金が

すえになる

いずれも我が家の手詰りの発とした人

に対する、その実の感慨である。

（つづく）

栃木県立図書館

栃木県立図書館

栃木県立図書館

栃木県立図書館